

田中康夫

今月の憂い「ト」

集団的自衛権の行使から、北朝鮮の拉致問題の進展、福島第一原発の吉田調書、ワールド・カップまで！

東京・銀座にオープンしたバー&レストラン

『赤道倶楽部』を訪れた田中・浅田両氏。

アフリカのかたちをデザインした赤いテリブルにつき、

日本の現状を苦笑まじりに憂えつつも、

アフリカのように熱い論議を繰り広げた。

photographs by Hiroshi Takeoka text by Kentaro Matsui

浅田彰



憂

談呆国憂

season 2 VOLUME 49

誰も望んでいない？ 集団的自衛権の行使。

浅田 「戦後レジームからの脱却」を唱える安倍晋三首相が、日本を戦争のできる「普通の国」にすべく猪突猛進してるね。

自民党は1955年の結党以来、自主憲法制定、とくに戦争放棄を定めた第九条の改正を綱領に掲げながら、決して性急に動くことはなかった。宮澤喜一のようなハト派は、3分の1を超える野党勢力がブレーキになって簡単に改憲できない、それはいいことだとさえ言っていた。ところが、戦争を体験した世代が退場し、野党勢力が力を失ったいま、急激にアクセルを踏みこんで暴走を始めちゃったわけだ。

ただ、世論調査をみても、さすがにすぐ憲法改正を実現するのは難しい。じゃあ解釈改憲でいこうってことで、歴代の政府が憲法解釈として「集団的自衛権は行使できない」と言ってきた、それを「行使できる」という解釈に変えよう、それも閣議決定だけで強行しようとする。そんな解釈改憲がまかり通るなら憲法なんて空文になっちゃうんで、改憲派の憲法学者さえ憤慨して言うように、これは立憲主義の否定だよ。

連立与党の公明党も、平和主義を党是としてきただけに、さすがに難色を示してるものの、連立離脱を辞さないという気構えはない。また、日本維新の会の橋下徹グループと袂を分かった石原慎太郎グループなんかは、公明党なんかよりわれわれと組んで憲法改正を断行しようって自民党にすり寄り。政治状況からすると、とりあえず安倍の暴挙を止めるのは難しそうだね。そうやって解釈改憲へと暴走しつつ、安倍は憲法改正の準備を進めて、まず国民

投票法の改正を強行した。投票権をもつ年齢を18歳まで引き下げたのはいいけれど、それなら他の選挙もそうすべきだし、民法上も成人年齢を18歳に統一したほうがいい。

しかしそんなことにはお構いなしに国民投票法だけ急いででっち上げたわけだ。解釈改憲へ、そして本格的な改憲へと、これほど拙速に突き進むってのは、恐ろしいことだと思うよ。

田中 まさに「王道」ではなく「霸道」で「邪道」な展開。論理が破綻した「霸道」が「刃道」へ暴走すると語呂合わせしたくなるほどだ（苦笑）。「クールヘッド・ウォームハート（冷静な頭脳と温かな心）」が政治や経済の指導者には不可欠だとアルフレッド・マーシャルは説いたけど、「ホットヘッド」な情緒や情念に陶醉している状態で、これではクールならぬ「クレイジーヘッド・クルーエル＝cruelハート」と後世の史家に評されかねない。

その昔は「そもそも論」を官僚が語ったものだ。それは新しいことをしたくないから、本来はかくあるべし、と理屈を述べた部分もあるけど、原理原則という基本を振り返ることもあった。ところが今回は外務省を筆頭に、法治主義の手続きをすっ飛ばして人治主義で「改革」を煽る始末だ。「改革派」として奈落の底に突き進んだ戦前の官僚へと先祖返りしている。

例の米軍艦船に乗った日本人母子の絵を描いたパネルを使って、「こんな場合でも米軍艦船を日米共同の敵から守ることは許さ



れないのか」と訴えてみせた記者会見も、情緒でしかなかった。それは大変だ、と国民も賛同するかと思いきや、これはリアルポリティックスでなく、「お花畑」でしょ、と冷静というか冷淡な反応だったのは、まだしもの救いかな。

浅田 あの母子の絵を大きく描き直すように、安倍自身が指示したっていうからね。そもそも、あの絵をはじめ、政府の示したいくつかの事例は、現実性に乏しいものばかり。

むろん、アメリカも、掃海や燃料輸送といった下働きを日本にやってもらえるなら、それは歓迎するよ。というか、日本は第一次湾岸戦争で掃海、アフガン戦争で燃料輸送をやってアメリカを中心とする多国籍軍に協力させられた。集団的自衛権の行使を容認せずとも、それはやっちゃったわけだ。むろん、ぼくはあれは憲法違反だっ

たと思う。また、アフガニスタンなんかで武装解除に携わった伊勢崎賢治が現場での体験に基づいて言うように、日本は戦争をしない、アメリカを中心とする多国籍軍に参加して戦うことがないってことが日本への信頼を生んでたんで、下働きとはいえ多国籍軍に加担した結果そういう平和国家としての声価を失ったのは、取り返しのつかない損失だったと思う。ただ、従来の憲法解釈でもそれはやれたわけで、集団的自衛権の行使を大っぴらに容認するとなると、もはや下働きにはとどまらない形でアメリカと一緒に戦争をすることになっちゃう。政府の言う

いくつかの限定なんてのは机上の空論で、実際には何の役にも立たないのには目に見えるよ。そもそも湾岸戦争で巨額の費用も拠出したのにアメリカやクウェートから感謝されなかったっていうトラウマが、解釈改憲・改憲への暴走を生んだわけだから。

田中 「駆けつけ警護」とやらも、多国籍軍が戦っている戦場で自衛隊が集団的自衛権の相手国だけ警護するなんてことはあり得ない。戦場とは自分が死ぬだけでなく相手を殺すことが第一の任務だという想像や覚悟の上での議論になっていない。

我々がずっと前から言っている世界中の戦争・紛争ならぬ天変地異に真っ先に駆け付けて救出・復旧を行うサンダーバード隊こそ創設すべき。二百歩、譲っても日本は兵站到徹すると宣言すべき好機。なのに、相変わらず20世紀的発想で周回遅れ。だって、自国には直接何も影響がなくてもあえて参戦するのが集団的自衛権。それってネット上のフアイアーウォールを全廃します宣言（苦笑）。実にお問抜けな丸腰状態で、ウィルス駆除会社もビックリだ。

「改憲」という王道論者の小林よしのりや小林節のWコバちゃんが今回は徹頭徹尾、我々と同じ発言をしている一点をもつても明々白々。その意味では、日米安保条約は片務的で申し訳ないと語る面々こそ、その発想自体が自虐史観なんだよ（苦笑）。巨額の「思いやり予算」を提供している日本はフリーライダーでなく双務的と相方のアメリカは十分にわかっているのにな。

浅田 理想論に過ぎないって言われても、日本はまずは国連中心主義を堅持すべきだよ。自由貿易を拡大するのなら、まずはグローバルなWTOの交渉を推進すべきで、リージョナルなTPPなんてのは邪道だっ

て言った。それと同じで、第二次世界大戦後の本来の理想は、国連による集団安全保障なんので、集団的自衛権をもってアメリカを中心とする軍事同盟に加わるなんてのは新帝国主義的な群雄割拠に巻き込まれることにしかならないんだから。

むろん、国連は、第二次世界大戦の戦勝五か国が安全保障理事会の常任理事国として拒否権をもつてたため、冷戦下では十分に機能しなかった。国連が指揮する国連軍もつくりださず、安保理決議のお墨つきがあるとはいえアメリカを中心とする多国籍軍がその代わりを務めてきたに過ぎない。冷戦の終わつたいまこそ、国連を本来の理想に従って機能させるよう、国連改革を提起すべき時なので、日本はそのリーダーシップを執るべきなんだよ。さもなければ、東西のイデオロギー対立に基づく冷戦のあと、今度はまた剥き出しの利害対立に基づく新帝国主義的割拠に退行しかねない。

今年が第一次世界大戦開戦100周年だけど、20世紀は2度の世界大戦で人類が破局に直面した時代だった。国連の集団安全保障のもと、戦争を非合法化するっていう構想は、その当然の帰結だったわけだ。いざとなれば戦争も辞さない「普通の国」っていう19世紀的な常識は、そこでは根源的に疑われてるはずなんだよ。第二次世界大戦で壊滅的な敗北を喫した日本は、いまさら二流の「普通の国」を目指すんじゃない、あくまで国連中心主義を現実化していく歴史的使命がある。

田中 本当だね。それにしても「限定的」「必要最小限」「三要件」「15事例」だの、ちよっとだけよ。の巧言ばかり。「8時だヨ!全員集合」のドリフターズかよ、お前らは(笑)。いかようにも拡大解釈可能な官僚用

語の「等」が付いてるんだから、それは最後まで見せちゃいます、しっちゃいますということなのよ。なのに会見では、非常に瑣末な重箱の隅をほじくるシミュレーション的質問ばかり。劣化もはなはだしい。

浅田 安倍政権は、新保守主義を掲げて憲法改正へと猪突猛進する一方、新自由主義を掲げて労働市場も含めた開放を推し進めようとしている。その矛盾はいずれ爆発することになるだろうね。

田中 確かにね。この問題は回を改めて議論しないかね。

北朝鮮との交渉は？ 拉致被害者問題のこれから。

田中 北朝鮮の拉致被害者救出の件でイギリスの軍事専門誌『ジェーンズ・ディフェンス・ウィークリー』の東京特派員を務める高橋浩祐が鋭い指摘をしていた。北朝鮮は国民に移動の自由がないから拉致被害者がどこに住んでいるか、すでにわかっているはずなのに、探し出すのになぜ1年もかかるんだと。北朝鮮からすれば、拉致問題



田中康夫

たなか・やすお●1956年東京都生まれ。
一橋大学法学部卒業。大学在学中に『なんとなく、クリスタル』で文藝賞受賞。
長野県知事、参議院議員、衆議院議員を歴任。

の解決を示すことで現体制は親父や祖父の時代とは違うことを見せようとしているわけで、極論すれば、どれだけの人数を出さずか日本から経済制裁の緩和を引き出そうとしているだけのこと。

実は今から10年前、小泉純一郎首相が2回目の訪朝でしつぽ返しを食らって5人の家族しか奪還できず批判を浴びた時に、自民党の安倍晋三幹事長(当時)が以下の発言をしたのを日経新聞が報じている。

「誰が考えても茶番で、直ちに取り下げるべきだ。拉致をしたのは彼らで、行方を知っていない。知らないふりをして一緒に調査するというのは、時間延ばし以外の何物でもない。拉致問題は金総書記がすべてを話せば1秒で解決する話だ」とね。同じ轍を踏まないか、心配だ。

浅田 北朝鮮の拉致問題特別調査委員会の活動を監視する日本人を送るっていうけど、北朝鮮に入ったとたん自分が徹底的に監視されるだけのことでしょう。

田中 「総連本部 移転先に政府機関も検討マルナカ」の見出しで産経新聞が報じた記

事を、ネットウヨの皆さんはどうして取り上げないのか、その鈍感力に驚いてるよ。

「総連側が立ち退きに難色を示すなど今後トラブルが発生すれば『売却先の目処が立たない事態もある』(公安筋) 情勢も踏まえ、マルナカは総連本部が日朝協議や拉致問題の外交交渉において重要な役割を果たすことなども考慮し、政府機関や公的機関への売却も視野に入れることにした」。

で、その後ね、「政府から『人命や国益のため』と言われれば、商売だけを考えるわけにはいかない」とマルナカ側のコメントも入ってる。その後、今度は共同通信が「落札業者に所有権が移れば司法の手を離れるため『朝鮮総連の関係先にビルを転売させるなど、知恵の出し方はある』との日本政府関係者の発言をカギ括弧で紹介した。ここまで読んでも無反応な日本のリテラシ

ーって、いやや。

浅田 拉致問題の早期完全解決を望まない人はいないし、少なくとも小泉政権なみの成果が望めるならスタンドプレーもあっていいだろうけど、残念ながら難しそうだね。他方、中国と韓国が反目的になつてるのを逆手に取って、安倍はタカ派路線を突き進んでるわけだけど、じゃあそれで東アジアにどういう秩序をつくるのかといえば、何の展望も描けない。その閉塞感がまたタカ派路線への支持につながるとすれば、危険な状況と言うほかないね。

「美味しんぼ」は風評被害？
「吉田調書」を公開すべき。

浅田 東京電力福島第一原子力発電所の吉田昌郎元所長から事故に関する聞き取りをした「吉田調書」が公開されず、原子力規制委員会のメンバーすら読んでなかったこ

巨額の「思いやり予算」を
提供している日本はフリーライダーでなく
双務的と相方のアメリカは
十分にわかっているのにな。(田中)



とが判明した。事故の真相の徹底説明がすべて前提なのに、これほど重要な情報すら秘匿されてきたわけだ。これは大スキャンダルだよ。朝日新聞のスクープだけでなく、あれだって秘密保護法が施行されてたら挙げられかねないんで、現に政府は誰がリークしたのか躍起になって探してる。

田中 「特オチ」した他のメディアが調書を手に入らずに書こうともしないのも異常だ。記者クラブが横並びで朝日に対して、これは極めて公益的な内容だから我々にもコピーを寄せと求めもしない。吉田氏の遺言だから公開できないという政府発表をそのまま書くだけ。彼の病気の話や家族のプライバシーとか、そんな内容を明かす話ではないのに。

浅田 むろん、吉田所長が最後まで原発内に踏みとどまって指揮にあたったことは、当然の義務を果たしたまでとはいえず、それなりに評価されるべきだし、おかげでもつと悪い状況避けられた可能性もある。ただ、結果的に3つの原子炉で水素爆発を起こしたことは事実だからね。また、東京電力本社が無責任な対応しかできなかったばかりか、フクイチの東電社員も所長命令にもかかわらず一時的に退避してたことが明らかになった。

田中 9割の人が現場を放棄するとはね。それにしても、「科学的知見」という言葉が揺らいでいるよね。甚大な原発事故はスリーマイルとチェルノブイリとフクシマだけなのに、チェルノブイリと比べてどうだと、ほとんど集团的自衛権の「15事例」や「限定的」の「情緒的知見」と五十歩百歩だ。甲状腺がんの確定者が50人の現時点では放射線の影響は考えにくいと「県民健康調査」検討委員会が発表したけど、客観的に見れば



武器輸出を禁じた三原則も大幅に緩和したわけで、日本を核と武器の輸出国にするつもりなのかもしれない。(浅田)

ば異常な数値なのは明らかでしょう。

浅田 にもかかわらず、安倍政権は原発再稼働に向けて猪突猛進、原子力規制委員会でも地震の危険を指摘してきた委員が任期満了で退任する一方、直近3年間に原子力関連団体の仕事をした者は選ばないっていう基準は民主党政権が勝手に決めたことだから無視するって言って推進派の田中知を選任した。これじゃ原子力「寄生」委員会だよ。こんなに乱暴なやり方が通っちゃうとは！ 他方、国外に向かってもどんどん原発を売り込んでる。武器輸出を禁じた三原則も大幅に緩和したわけで、日本を核と武器の輸出国にするつもりなのかもしれない。

田中 例の『美味しんぼ』騒動も、鼻血が出た出ないという情緒的な主観論に終始してしまっただけで、野党時代に福島選出の森まさこも改憲論者の山谷えり子も国会で、双葉町の井戸川克隆元町長の発言を引用して、「本当に重い発言だ」と取り上げてるんだよね(苦笑)。「3年たっても事故現場に足を踏み入れる

こともできないというような事故はやはり原子力しかないし、原子力というのはここまで過酷だったんだと改めて思います」と京都大学原子炉実験所助教の小出裕章が述べているけど、まさにそのとおりで、雁屋哲もこの言葉を示して展開すれば、「科学的知見」論者もぐうの音も出なかった。

我々は震災直後の対談でも社会学者ウルリッヒ・ベックの発言を紹介する形で、一定の場所・時間・社会グループに悲劇が留まる航空事故や工場事故と違って原発事故は社会的にも地理的にも時間的にも被害が連続・拡大し続ける蓋然性が極めて高いと懸念していた。しかも無色・透明・無臭で人間の五官が察知し得ない厄介な存在が放射能。なのに、「汚染水は完全にブロック&コントロールされています」健康問題は今までも現在も将来もまったく問題ないことをお約束します」と胸を張るのは、これこそが「根拠のない風評被害」。

浅田 アーティストの岡崎乾二郎と話したんだけど、低線量放射能被曝の問題は、明らかに影響が出るのに、統計的に微妙す

ぎて因果関係の立証が難しいこと。それでも影響は出るんだよ。だから、『美味しんぼ』みたいに中途半端なルポルタージュめいたことを書くより、谷岡ヤスジみたいに一見不条理な「鼻血ブー」で攻めたほうがよかつたんじゃないか、と。

原発はコントロールされてるっていう安倍的言葉こそまったくのたため。そんな嘘八百でオリンピックを誘致しちゃったんだから恐ろしい。ブラジルで始まったサッカーのワールド・カップについて、施設の工事がぎりぎりまで遅れたとか、反対デモがあったとか、それを後進国の困った問題のように言う報道が日本では目立つけれど、あれほどのサッカー王国で、こんなことに巨額の予算を割いている場合じゃないっていう正論がこれほど広がったのは、大したものだと思う。オリンピック熱にまんまと乗せられて、原発問題から目をそらしがちに日本なんかより、よほど民度が高いよ。

とにかく、原発はコントロールできてないことを率直に認め、「吉田調書」も含めて徹底した真相究明を進めると同時に、あらゆる知恵と資源を投入して事態の収拾を急ぐべきなんで、オリンピックなんてやってる暇はないはずだよ。それにしても、汚染水対策に凍土壁を選ぶなんて、よくそんな大胆なギャンブルを！ 原発の工事を請け負ってきた鹿島建設の案だから選ばれたんだらうけど、素人が見てもいかに危ないか。

田中 フクイチの対応拠点になっている檜葉町の「Jヴィレッジ」を東京オリンピックのキャンプ地に使うと決めたらしいけど、「放射能に占領された領土」の周囲に日本代表のサッカー選手を送り込むなんて、これぞ「今、そこにある危機」だよ。

浅田 彰

あさだ・あきら ●1957年兵庫県生まれ。京都大学大学院経済学研究科博士課程中退。京都造形芸術大学教授。83年に出版されたデビュー作『構造と力—記号論を超えて』はベストセラーに。

